



観光客でにぎわう
タイムズスクエア
(ニューヨーク/アメリカ合衆国)



2024年度
2
学期号

日々の授業を
さらにサポート!

地歴・公民科資料

ちれこ
ChiReKo

付録

- ① 読み解き!
アートが語る当時の社会
ドラクロワ
『民衆を導く自由－1830年7月28日』
解説・授業での活用例:今林 常美
- ② 地図帳活用コトハジメ付録ワークシート
地図帳から読み解く「世界の気候と人々の生活」
解説:中村 明信



CONTENTS

- 2 帝国書院 取材班が行く!
アメリカ合衆国
- 4 地図帳活用コトハジメ 中村 明信
地図帳から読み解く
「世界の気候と人々の生活」
- 6 教育情報ナビゲート 中村 秀司
地理の授業や課題研究等における
探究的な学びの指導の工夫
- 10 研究最前線～地理 服部 倫卓
ロシア・ウクライナ産業紀行
－ありし日の情景をめぐって－
- 14 授業研究 地理 能勢 博之
地域調査を取り入れた観光と
オーバーツーリズムの授業
－鎌倉を事例に－
- 18 授業研究 歴史 山田 道行
『タペストリー』を活用した
世界史「探究」の試み
－「問い続ける学習者」を育むために－
- 22 授業研究 日本史 松井 秀明
世界史から地域史へ、
そして「日本史探究」へ
－安政東海地震と日露交流史に向き合う－
- 26 授業研究 公民 茶山 一郎
資料集『ライブ!公共2024』を活用した
「公共」の授業・考査研究例
主体的で自由な生き方に向けて
(それに資する「公共」の授業と考査)
- 30 徹底活用! ICT 加藤 周平
『デジタル準拠ノート
明解 歴史総合』を活用した
「歴史総合」の授業展開例
- 34 キャッチ! 最新情報
- 35 注目活動紹介 関 信夫
『おもしろ半島ちば』
シリーズ完結!

帝国書院



アメリカ合衆国 基本情報(2019年)

📍 首都:ワシントンD.C. 🏠 人口:約 32,824 万人 🗺️ 面積:約 983.4 万km² 🌡️ 年平均気温:13.5°C (ニューヨーク)



日本との関係も深く、だれもがよく知っている国、アメリカ合衆国。しかしながら、この国はとても広く、実は知られていないこともたくさんある。今回はそんなアメリカ合衆国でも、訪れる機会が少ない農村部、そして大都会ニューヨーク取材した。

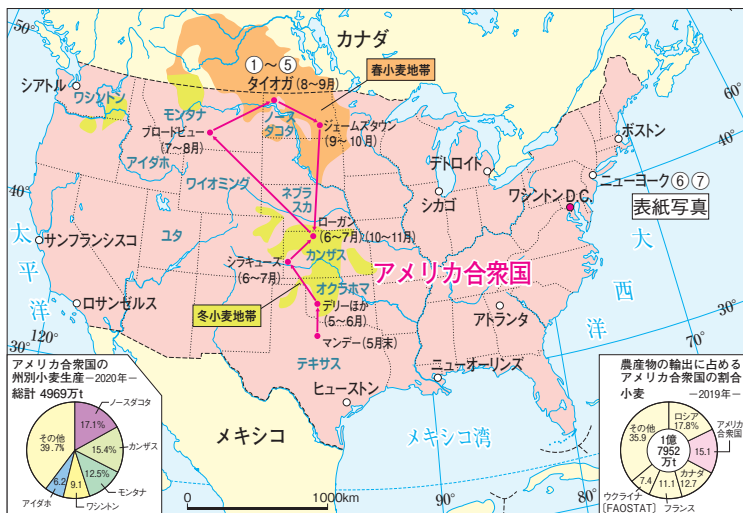
郊にある。地図帳にも掲載されないタイオガの街の人口はわずか 2,000 人程度であり、アメリカ合衆国の中では“田舎”といえる地域である。街の周囲には広大な小麦畑が広がり (写真①)、ここで収穫される小麦は世界に広く輸出されている。

世界の食料を支える小麦地帯

今回の取材で訪問したタイオガという街は、アメリカ合衆国北部のノースダコタ州、ウィリストンの近

コンバインクルーの生活と仕事

この広大な畑を所有者である農場主みずからがすべて収穫することは困難であるため、収穫を請け負う会社と契約を結び、収穫を依頼している。今回は収穫を請け負う会社を経営するご家族を取材した (写真②)。こちらのご家族は 2001 年に会社を立ち上げ、現在では息子さんもこの仕事に就いている。このような会社で働く人々はコンバインクルーとよばれており、取材するまでは大きな会社に属する社員のようなイメージだったが、経営自体は家族で行っており、コンバインを運転する人や車両をメンテナンスする人を雇っている。総勢 11 名からなる会社は、半年の間、アメリカ合衆国のプレーリーを、小麦や大豆を収穫しながら移動する (写真③)。会社を経営するご家族の居住地はカンザス州だが、春に収穫の仕事が始まると、11 月まで家にはほとんど戻らず収穫を続ける (地図)。小麦は人間の都合で収穫の時期を待つはくれないので、その期間は土日も含めて休みがほとんどない。





収穫が始まると、コンバインは休むことなく小麦を刈っていった。広い畑で効率よく収穫を行うため、自分が乗っているコンバインやほかのコンバインの位置情報は専用のアプリで確認する(写真⑤)。このアプリを用いれば、衛星を用いた位置情報だけでなく、各コンバインの収穫量や畑の何%が収穫を終えたのかもモニターに表示される(写真④)。収穫作業は朝10時ぐらいから始まり、夜11時ぐらいまで行うこともよくあると話していた。昨今は干ばつが問題となっており、今回も本来ならばモンタナ州に行く前にユタ州でも収穫を行う予定だったのが、干ばつによって小麦が枯れて収穫できなくなり、予定が変わったのだという。気候変動は彼らや農家の収入に直結しており、非常に重要な案件となっている。

収穫期の彼らの生活は過酷であると感じることが多かった。しかしながら、彼らは自分たちの仕事が日本や世界の人々の食料を支えていることに誇りをもっており、力強くそのことを語っていたことが印象に残った。また、われわれ自身も改めて地球温暖化やフードロスなどに対して考えることの大切さを感じた。

ニューヨークのジェントリフィケーション

タイオガでの取材を終えたわれわれは、もう一つの取材地であるニューヨークへ移動した。ニューヨー

クでは世界的な観光地であるタイムズスクエア(表紙写真)を訪れたが、前日までとは全く異なる、人の数や情報量の多さに圧倒された。ニューヨークでは主にジェントリフィケーションについて取材するため、移民が多く居住してきた歴史をもつブルックリン区(写真⑥)を訪問した。

ブルックリン区は、1980年代から90年代にかけて、ニューヨークで最も治安の悪い地域の一つだったが、2000年代に入って再開発が進み、現在では富裕層が住む地区も増えている。ただし、大資本による再開発により高級マンションなどが立ち並ぶことで家賃が高騰し、もともとの住民が住めなくなる問題も生じている。そこでブルックリン区のブッシュウィックという地区では、古くからの住民が中心となり、使われなくなった倉庫をアパートや小売店として貸し出した。現在では、若手の芸術家などが集まるアート地区として、注目されるようになっている(写真⑦)。しかしながら、それでも居住地を追われる人が存在し、マンハッタン区の一部では治安が悪化している地区が出現している。都市問題や移民の問題を解決することへの困難さを実感した。

帝国書院
取材班が
行く!は
こちらから▶



写真は
こちら
から▶



動画は
こちら
から▶



写真: 2023年8月撮影/帝国書院